# 感染は平等、医療は平等？

札幌市医師会
コロンビア内科
小谷　晃司

今日の朝刊に「札幌市に寄せられた新型コロナウイルスに関する主な相談」というのが載っていた。それによれば「せきが多く出るのだが」といった相談に対しては「感染者の濃厚接触者ではない人などはコロナウイルス検査の対象ではなく、かかりつけの病院などを受診する（ように）」と回答されているようだ。

一方で、同じ紙面には東京都で新たに72人の感染が確認されたという記事が載っており、「72人のうち、重症者は１人で、感染経路が不明なのは52人だった」とある。つまり、少なくとも51人の重症でもなく感染者との濃厚接触も確認されていない人間がPCR検査を受けたということになる。もちろんその大半は医療機関からの紹介なのだと思うが、少なくとも先に挙げた保健所FAQとは感染経路が不明＝感染者との濃厚接触が確認されていないという点で完全に矛盾している。厚労省大臣の記者会見で全国の保健所の「誤解」が解かれる前のエピソードではあるが、当院でも38.5℃の発熱で発症した後、数日37.5℃前後で経過したケースに関して「相談」をしてPCR検査を断られた経験があり、ここはどうしても検査まで「こぎつけた」人々の属性が気になってしまう。

しばらく前に予防的隔離入院から無事退院してきた若手プロ野球選手の記者会見があった。新型コロナウイルス感染症の早期には嗅覚低下を生じることがあるという事実を世間に知らしめるきっかけとなった功労者である。スポーツ紙のウェブページで入院までの経緯を確認してみると「自分が最初に気付いたのはワインのにおいがしなくて。次の日になっても鼻が詰まっていないにもかかわらず、コーヒーのにおい、飲み物のにおいがしなかったので、ちょっとおかしいなということで」病院を受診、即刻PCR検査が実施され、陽性が判明したとのことだった。担当された先生には嗅覚低下以外に一切症状がなかったところからよくぞ確診に至られたなと尊敬せずにはいられないが、でも、なんで受診時に症状がここまで軽微な、病室内では持ち込んだ機器でトレーニングをして過ごしたというほどの青年が、こうも簡単にPCR検査を受けることができたのだろう。これより余程疑わしい症状を呈している「一般人」が体調の優れない中、20分も30分も粘って電話して挙句、「感染者の濃厚接触歴のない人は検査の対象ではありません」とハネつけられてる。どうにも釈然としない。

私は闇雲なPCR推進論者ではない。ドライブスルー検査にはむしろ反対だ。しかし、今回のポイントはそこではない。とにかく明確な基準を示してほしい。検査をしないならしない理由を、するならする対象をどのように選定しているのか、そこが明示されなければ世間は納得しない。現状ではせっかくの検査がかえって不安を助長させ、不満を募らせるタネになっている。ただいまは非常事態宣言の下、多くの国民が不自由を耐えているが、そこを頑張れるのは自分だけではない、誰もがそうなのだという気持ちがあるからだろう。カネやコネで抜け駆けしているヤツがいるのだと、たとえそれが事実ではなく、多少の誤解があったのだとしても、そう思ってしまった時点で緊張の糸がプツリと切れてしまうことを危惧する。

巷では重症を演出するために病院受診前に指にワセリンを塗るとSpO2を見かけ低くすることができる等々の「ウラワザ」がTwitterなどで流布されていると聞く。是非はともかく、私はこういった話が出回る、その背景にある心情が理解できる。正義が守ってくれないなら自分や自分の家族の身は自分で守るしかない。かくて徴兵検査に醤油を飲んで臨む。コントロールする立場にある方々にはここはぜひ、平等に、公平に、分かりやすく、お導きいただきたい。板挟みになっている水際の内科開業医という立場からも切にお願いを申し上げる次第である。